



香芝市 千股池から二上山

もくじ

- 「老いに寄り添い、いのちに寄り添う!」……………1
- 令和5年度奈良県老人福祉施設協議会 事業報告（令和5年4～12月）……………2
- 第35回奈良県老人福祉施設職員研究会 報告……………4
- 人財のはぐくみ……………6
- プチっと講座……………7
- 研修報告……………8
- 受賞報告……………8
- 編集後記……………8

「老いに寄り添い、いのちに寄り添う!」

奈良県老人福祉施設協議会
副会長 平岡 毅

新年早々のニュースには驚きと悲しみでいっぱいになりました。改めまして、このたびの能登半島地震により被害に遭われた皆さまへ、心からのお見舞いを申し上げます。そして、ご家族や大切な方々を亡くされた皆さまへ、謹んでお悔やみを申し上げます。

さて、あと1年でひとつの区切りであるいわゆる2025年を迎えることとなり、今後、高齢者人口がピークを迎える2040年頃に向けて、85歳以上人口割合の増加や生産年齢人口の急減といった更なる人口構造の変化やそのことに伴う社会環境の変化等の課題が山積の状況であります。そのような中、令和6年4月介護保険制度改正と介護報酬改定が「地域包括ケアシステムの深化・推進」「自立支援・重度化防止に

向けた対応」「良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」「制度の安定性・持続可能性の確保」を基本的な視点として実施されます。今回はここ最近の増税関係の時代相と相まっての特徴として、“あれもこれも先送り…”という感があり、次の2027年度には負担増・給付減の施策が提案されることは必至であると考えます。

これからの令和な時代…改めて私たちは、福祉・介護の匠(たくみ)(専門性)への研鑽、業務優先思考からの脱却、デジタル化等への積極的な順応等々、お一人おひとりの“老いに寄り添い、いのちに寄り添う”べく携わりを丁寧に重ねて参りたく思います。

令和5年度奈良県老人福祉施設協議会 事業報告(4月～12月)

4月

- 生活相談員いとも(第46回) (Zoomオンライン研修) / 職種別研修委員会
開催日：令和5年4月21日(金)
テーマ：座談会「新型コロナウイルスの5類感染症移行によって施設はどうなる、どうする」
助言者：関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授 一村 小百合氏
参加者：15名

5月

- 第1回生活相談員連絡会 / 養護老人ホーム部会
開催日：令和5年5月10日(水)
開催場所：養護老人ホーム聖ヨゼフ・ホーム
内容：施設見学・情報交換
参加者：24名

6月

- 生活相談員いとも(第47回) (Zoomオンライン研修)
開催日：令和5年6月16日(金)
テーマ：事例検討会「入所後、特養に馴染めないMさん」～俺はここを出ていくや～
助言者：関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授 一村 小百合氏
参加者：15名
- 令和4年度施設状況調査 / 施設運営推進委員会
調査時期：令和5年7月3日(月)～7月25日(火)
調査内容：定員数 / 入所者の状況 / ショート利用状況 / 待機者数 / 職員の状況 / 職員の採用・状況 / 加算・減算の算定状況 / 外国人介護人材の受入状況 / 第三者評価の受審等の状況等

8月

- 介護職員実践講座(第1回) / 職種別研修委員会
開催日：令和5年8月7日(月)
開催場所：奈良県社会福祉総合センター
テーマ：「介護に必要な制度の理解」
「介護の基本(尊厳・倫理)」
講師：桃山学院大学社会学部社会福祉学科 非常勤講師 塩田 祥子氏
参加者：27名
- 生活相談員いとも(第48回)
開催日：令和5年8月18日(金)
開催場所：奈良県社会福祉総合センター
テーマ：事例検討会「Tさんの『自律』支援「社会から愛される人」を目指して」
助言者：関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授 一村 小百合氏
参加者：8名



9月

- 介護福祉士ファーストステップ研修(1・2日目) / 職種別研修委員会
開催日：令和5年9月6日(水)・7日(木)
開催場所：奈良県社会福祉総合センター
テーマ：「高齢者の尊厳と介護倫理」
講師：特別養護老人ホームゆあほうむ榛原 副施設長 木島 義知氏
参加者：19名
- 第2回生活相談員連絡会 (Zoomオンライン研修) / 養護老人ホーム部会
開催日：令和5年9月22日(金)
内容：研修企画・情報交換
参加者：12名
- 介護職員実践講座(第2回) / 職種別研修委員会
開催日：令和5年9月27日(水)
開催場所：奈良県社会福祉総合センター
テーマ：「高齢者の病気の理解」
講師：一般財団法人信貴山病院法人本部 経営企画室 室長 特別養護老人ホームハートランド五條 施設長代行 関本 太志氏
テーマ：「高齢者のからだと機能訓練」
講師：総合リハマネジメント研究所 所長 本村 清二氏
参加者：29名
- 機関紙「あおによし」の発行 / 情報発信委員会
第40号 令和5年9月発行 発行部数 2400部
配布先：会員施設、各市町村行政、老人福祉センター、各市町村社協、学校、地域医療連携室等

10月

- 看護職員研修 / 職種別研修委員会
開催日：令和5年10月4日(水)
開催場所：奈良県社会福祉総合センター
テーマ：「認知症ケアを学ぶ」～認知症の人の生活を支えるための看護職員の役割とは～
講師：ぬくもりグループ 本部研修センター サポートナース 認知症看護認定看護師 西 千亜紀氏
参加者：30名
- SDGs研修会 / 施設運営推進委員会
開催日：令和5年10月13日(金)
開催場所：奈良県社会福祉総合センター
テーマ：SDGsワークショップ「The Action! ～SDGsカードゲーム～」
講師：損害保険ジャパン株式会社 奈良支店 小松 弘義氏
参加者：17名



西 千亜紀氏



研修会様子

●介護職員実践講座（第3回）／職種別研修委員会

開催日：令和5年10月16日（月）

開催場所：奈良県社会福祉総合センター

テーマ：「リスクマネジメントと介護職員の健康管理」

講師：デイサービスセンターゆあほうむ榛原
センター長 松田 慶氏

特別養護老人ホーム延寿

主任生活相談員 小河 良氏

テーマ：「チームケア」「記録の書き方」

講師：テンダーヒル御所わかば館 館長 鶴田 浩史氏

参加者：35名

●介護福祉士ファーストステップ研修（3・4日目）

／職種別研修委員会

開催日：令和5年10月19日（木）・20日（金）

開催場所：奈良県社会福祉総合センター

テーマ：「行動への気づきと対応」

講師：老人総合福祉施設あくなみ苑

施設長 田中 将史氏

参加者：19名

●生活相談員いとも（第49回）

開催日：令和5年10月27日（金）

開催場所：奈良県社会福祉総合センター

テーマ：「施設の困りごとと迷いごとのフリースペース」～感染症対策、介護報酬改定へ向けて、相談員の役割etc みんなで情報・意見交換をしましょう～

助言者：関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科
准教授 一村 小百合氏

参加者：9名

●令和6年度施策並びに予算に関する要望書提出（奈良県）

／施設運営推進委員会

令和5年10月30日（月）に奈良県知事・奈良県議会
議長・奈良県議会厚生委員会委員長に対して「令和6年度施策並びに予算に関する要望書」を提出

11月

●第35回奈良県老人福祉施設職員研究会議

／テーマ別研修委員会 ※4ページ参照

開催日：令和5年11月1日（水）

開催場所：THE KASHIHARA

テーマ：「支え合う、安心な暮らしと人の環(わ)」
～未来へ繋がる介護～

内容：基調講演、研究分科会

参加者：163名

●「なら介護の日2023」啓発活動事業

／情報発信委員会

令和5年11月11日（土）開催「なら介護の日2023」
の啓発活動事業へ参加

●介護職員実践講座（第4回）／職種別研修委員会

開催日：令和5年11月13日（月）

開催場所：奈良県社会福祉総合センター

テーマ：「認知症ケア」

講師：認知症介護指導者

天理市東部地域包括支援センター 澤井 秀明氏

テーマ：「口腔ケア」

講師：特別養護老人ホームあじさい園 園長 松村 清子氏

参加者：35名

●令和6年度施策並びに予算に関する要望書提出（奈良市）

／施設運営推進委員会

令和5年11月22日（水）に奈良市長・奈良市議会
議長・奈良市議会厚生消防委員会委員長に対して
「令和6年度施策並びに予算に関する要望書」を提出

12月

●介護福祉士ファーストステップ研修（5・6日目）

／職種別研修委員会

開催日：令和5年12月12日（火）、
令和5年12月13日（水）

開催場所：奈良県社会福祉総合センター

テーマ：「コミュニケーションの方法と応用」

講師：養護老人ホーム聖ヨゼフ・ホーム
施設長 福井 修平氏

テーマ：「観察・記録の的確性」

講師：特別養護老人ホーム国見苑
施設長 山本 茂雄氏

参加者：19名

●生活相談員いとも（第50回）

開催日：令和5年12月15日（金）

開催場所：奈良県社会福祉総合センター

テーマ：講演会「ソーシャルワーカーとしての
自己理解と
キャリア形成」講師：中部学院大学
地域連携推進センター
コーディネーター

准教授 野方 円氏

助言者：関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科
准教授 一村 小百合氏

参加者：21名

●介護職員実践講座（第5回）／職種別研修委員会

開催日：令和5年12月19日（火）

開催場所：奈良県社会福祉総合センター

テーマ：「看取りケア」「利用者の死の向き合い
方とメンタルヘルス」講師：訪問看護ステーションなでして
所長 志茂 友紀子氏

参加者：29名

●施設長連絡会議・特別養護老人ホーム部会研修

／特別養護老人ホーム部会

開催日：令和5年12月20日（水）

開催場所：リガーレ春日野

テーマ：「ヒューマンエラー防止
と睡眠マネジメント」講師：奈良労働基準監督署 署長
尾形 賢一氏

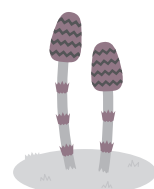
参加者：84名



野方 円氏



尾形 賢一氏



研修報告 第35回奈良県老人福祉施設職員研究会議 報告



基調講演様子

35回目となる奈良県老人福祉施設職員研究会議は、コロナの5類移行を受け、コロナ禍以前の集合形式で行うこととしました。しかし、コロナやインフルエンザの心配が全くないとは言えず、参加者が集まるのかと心配しましたが、163名の参加を得ました。

当日は、開会式の後、臨床心理士の中村のり子氏による講演に続き、3つのテーマに分かれた研究分科会では14の発表が行われました。



分科会様子

「笑いヨガ認定ティーチャー」でもある中村のり子氏の講演では、出席者が参加する場面もあり顔がほころびました。また、研究分科会で発表された会員施設では、それぞれが特徴ある素晴らしい取り組みがなされており、参加者の皆様も熱心に耳を傾けメモを取っておられました。

今回の研究会議のサブテーマでもある「未来に繋がる介護」のヒントを得られたことであろうと思います。

研究分科会の後に行われた情報交換会には107名の会員施設職員が参加され、活発に情報交換をされていました。

来年も各施設のサービスの向上に繋がる研究会議として、より多くの会員施設職員の方々にお逢いしたいと思います。

テーマ別研修委員会 委員長 東 武志

開催日：令和5年11月1日（水）
 会場：THE KASHIHARA
 参加者：研修：163名（近畿各府県会員内外）
 情報交換会：107名
 テーマ：「支え合う、安心な暮らしと人の環(わ)」
 ～未来へ繋がる介護～
 内容：基調講演「職場のコミュニケーション
 ～“受け止め力”の作り方～」
 講師：臨床心理士／公認心理師／
 スクールカウンセラー／
 笑いヨガ認定ティーチャー
 中村 のり子 氏



中村 のり子 氏

分科会：

第1分科会

「生活の質の向上を目指した取り組み」 6発表

第2分科会

「在宅支援の取り組み」～その人らしさが輝くように～
 4発表・グループワーク

第3分科会

「働きやすい職場づくりの取り組み」
 4発表・グループワーク



グループワーク様子

<研究分科会 発表者の声>

○第1分科会 「生活の質の向上を目指した取り組み」

発表タイトル：「1人を見つめて みえてきたもの…」～これまでから これからを創る～

発表者：特別養護老人ホーム祥水園 介護職 曾我部 弘瑛 さん

今回の研究発表を通して、ご利用者の今の状態を見て、昔の暮らしや生活をよく知らず、この人はこのような人と決めつけて介護していました。より良い生活を目指すためには、施設の中では見つからない目標や何かのきっかけが大切と学び、ご利用者の思い出の土地へ行く、関わりの深い方との交流等を行いました。その関わりの中でご利用者のこれまでの人生を知る事ができ、今度はこれがしたいという意欲が沢山生まれてきました。

今だけに注目するのではなく、視野を広げ過去の話等を知る大切さを知りました。ご利用者の今の姿だけを見るのではなく、これまでの暮らしや交流と一緒に共感し、目標を立て、これからのより良い生活を一緒に創る事が大切と学びました。

○第2分科会 「在宅支援の取り組み」 ～その人らしさが輝くように～

発表タイトル：「助けられ上手をつくる」～地域で孤立させない・地域で支え合う支援～

発表者：生駒市フォレスト地域包括支援センター 第2層生活支援コーディネーター（保健師）岡本 莉奈 さん
認知症地域支援推進員（看護師） 北西 麻耶 さん

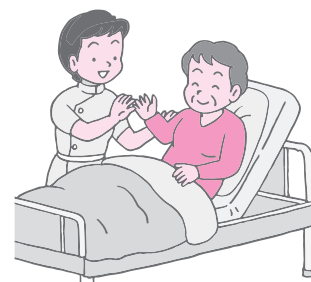
今回、初めて研究分科会に参加させていただきました。上司から「研究分科会で発表してもらえますか？」と声がかかったときは、大変そうだなと思いました。ですが、発表に向けて資料をまとめることで自分自身の仕事内容を振り返る良い機会となり、またそれを研究分科会の場で発表することで日々の業務の成果を感じる機会となりました。さらに良かったことは、他の事業所の良い取り組みを知ることができたことです。分科会で助言者を努めていただいたけんぞう倶楽部®さんには、今度、介護予防教室を依頼させていただきました。研究分科会に参加したことは、良い学び・良い出会いにつながりました。ありがとうございました。

○第3分科会 「働きやすい職場づくりの取り組み」

発表タイトル：「見守り支援システムを導入して得られた結果」

～ご利用者の体調変化の早期発見、職員の負担軽減～

発表者：特別養護老人ホーム延寿 介護職 星本 章雄 さん



今後、介護業界は人材不足がより一層深刻になると予測されており、介護現場におけるICT（情報通信機器）の利用促進が求められています。分科会のテーマである「働きやすい職場づくりの取り組み」が重要になり、施設が抱えている問題（離職防止・生産性向上・働きがいなど）に取り組んでいく必要があります。第3分科会では多角的な視点から働きやすい職場づくりの取り組みについての発表があり、それぞれの施設の特色を活かした取り組みでどれも参考となる発表内容でした。今後、自施設では現場職員が主体となり利便性の高い機器の選定・導入を行い、職員自らが働きやすい職場づくりに参画できる環境の構築を目指していきたいと考えています。

～人財のはぐくみ～

第4弾 『障がい者雇用の取組み～多様な人材を求めて～』

養護老人ホーム奈良市和楽園 施設長 小西 彰

『介護業界が深刻な人手不足に陥ることは、以前から予測をされていました。その人手不足を補うために、和楽園では、様々な人材確保に力を入れてきました。外国人技能実習生の雇用(平成31年4月)、子育て中の人が働きやすい職場となる様に企業主導型保育所の開設(令和元年9月)、そして障がい者雇用にも平成25年3月から取り組んできました。』

最初は、高次機能障害者を介護の現場に採用しました。NPO法人にマッチングをお願いし、数度の実習を経て採用しました。この職員は、交通事故による障がいでは移乗業務や排泄介助の業務には支障がありますが、それ以外の業務を担ってもらっています。この経験を踏まえ、平成30年4月からは、更に高次機能障害者を1名、知的障がい者を2名、同法人からの紹介を受け、高等養護学校とも連携して採用しました。現在は、高次脳機能障害者2名、知的障がい者4名、その他障がい1名を雇用しています。(法定雇用率の4倍の職員を雇用しています。)

障がい者雇用では、採用前のマッチングをする外部団体や養護学校の協力が不可欠です。また採用後の彼らに仕事をサポートするジョブサポーターの役割をする職員や仕事や私生活の相談にあたる外部団体職員も必要になってきます。特に、障がい者雇用の注意をする点は、時間をかけて育てることです。一度に多くの課題を与えるのではなく、一つずつの課題を克服した後に次の課題を与える様にすることが重要です。障がいの程度にもよりますが、健常者が1年で覚えることも数年かけて教えていくことが大事です。そうすれば、彼らは真面目で真剣に一生懸命仕事に取り組んでくれます。その仕事に対する姿勢は、他の職員にも良い影響を与えています！

職員インタビュー

Q：介護の仕事の中で何が一番苦労しましたか？(H.I.さん)

A：記憶障がいのため、利用者さんの名前がなかなか覚えられないので、お茶を配る仕事や排泄介助でのテーブル止めに苦労しました。

Q：介護の仕事をしていて一番助かったことは何ですか？

A：上司や同僚の方にアドバイスや相談に乗ってもらったサポートがあったことが一番助かりました。

Q：介護現場で働いて、一番楽しいことは？(T.T.さん)

A：清掃の関係での仕事では、力仕事が一番楽しいです。力仕事で食堂だったり、廊下だったり掃除をピカピカさせて、とってもスッキリするから、楽しい気持ちになります。



プチっと講座 「SNSは困っている人たちの選択肢が増える」

私たち奈良県老協は、すべての会員施設が、福祉サービスの中核的拠点として、社会的弱者の支援や地域社会での福祉の向上に重要な役割を果たしています。安心な社会の構築のためにも、まずは私たちの役割を広く知って頂くことが必要ではないでしょうか。

そのためには、SNSが欠かせませんが、その主な目的・効果は次のとおりと感じます。

1. 社会福祉の可視化と啓発

施設の小さな取り組みもSNS上で紹介されることにより、多くの人々に社会福祉の価値や重要性を伝え、社会的な問題やニーズに対する理解を深め、支援の必要性に関心を持つ人々が増えることが期待できます。

2. コミュニケーションと交流の促進

SNS上でのコメントやメッセージのやり取りを通じて、密なコミュニケーションを築くことができ、利用者の声や思いを収集し、各世代に合った支援の実施につなげることができます。

3. 情報の迅速な発信と共有

福祉施設がリアルタイムの情報を発信・共有することで、利用者や関係者に対してサービスの変更やイベントの告知、災害時の支援等の“新鮮な”情報を提供することができます。

4. 地域社会との連携強化

地域の住民や関連団体との交流や協力関係を築くことで、社会福祉の活動をより地域に根付かせ、地域の問題解決や地域の発展に寄与することができます。

SNSは、より多くの人々に社会福祉の重要性や存在を伝え、支援や協力を広げることができます。一方で、適切な情報管理やプライバシー保護等の注意点も忘れてはいけません。誤情報や不確かな情報の発信によって誤解を与えたり、意図しない伝わり方をしたり、さらに、なりすましや著作権・肖像権の侵害への配慮も必要となる等、情報の発信には、慎重でなければならない側面も併せ持っています。

SNSによる情報発信を通して、小さな差異があるからこそ多様であって、困っている人にとっても受ける支援を自らが選ぶことにつながると知ってもらうためにもSNSを活用してみませんか。

そこで、ある会員施設の取り組みをご紹介します。

実践紹介「ふるさと園でのSNS活用」

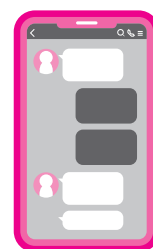
SNSの活用に注目が集まっている昨今、ふるさと園においてもホームページとfacebookを連動させて、入園者様の日常生活や介護職を含めた施設職員の仕事ぶり等を掲載して情報発信しています。

しかし、当初は担当者を決めていなかったことで、投稿は不定期で、見て頂いている方（フォロワー数）も増えず、充実感ややりがいを感じていませんでした。また、日常を伝えると言っても「行事」に傾倒した投稿が多くなっていました。

新型コロナウイルスの感染予防で面会が制限され、施設内の様子をご家族にお知らせする機会も減っていた頃、「行事も良いが、毎日どんな暮らしをしているか知りたい」というご家族からのお言葉を頂戴しました。施設の機関紙「ふるさと園新聞」をご家族に送付していたものの、感染対策業務に追われてfacebookの更新が滞りがちとなってしまったため、簡単に情報発信ができるSNSを見直すことにしました。

まず、担当者を決め、情報更新を頻回に行うようにしました。そして、担当者が情報更新する前に、内容や守秘義務の確認を二重でチェックして情報発信する体制としました。結果、閲覧者が増えている大きな実感は無いものの、職員採用につながる等、担当者のやりがいを得ることにつながりました。今後はinstagramにも挑戦したいと考えています！

特別養護老人ホームおきな杜 施設長 名張 裕信
特別養護老人ホームふるさと園 施設長 森川 愛美



～令和5年度近畿老人福祉施設協議会施設長研修会(奈良大会)を開催しました～

「令和5年度近畿老人福祉施設協議会 施設長研修会」を本年度は奈良県が当番県として、近畿各府県より研修会約200名、情報交換会約110名の参加をいただき、下記内容で開催いたしました。

開催日時：令和6年2月1日(木) 13:30～17:00 (情報交換会 17:30～19:30)

開催場所：ホテル日航奈良

テーマ：『激動の時代に福祉・介護の今とこれからを考える』～持続可能な事業運営をめざして～

内容：情勢報告 「令和6年度介護報酬改定と全国老施協の取り組みについて」

公益社団法人全国老人福祉施設協議会 会長 大山 知子 氏

基調講演 「令和6年度介護保険制度改正・介護報酬改定の最新動向を踏まえた取り組みのポイント」

淑徳大学総合福祉学部 教授 結城 康博 氏

記念講演 「1300年 悠久の古都と春日大社」

春日大社 宮司 花山院 弘匡 氏



第2回全国老人福祉施設大会・研究会議 ～JSフェスティバル in 岐阜～

分科会実践研究発表 奨励賞受賞 おめでとうございます！

令和5年11月29日(水)～11月30日(木)に開催されました。第2回全国老人福祉施設大会・研究会議～JSフェスティバル in 岐阜～における分科会実践研究発表におかれまして、奈良県施設発表が奨励賞を受賞されました。誠にありがとうございます。

受賞名
奨励賞

(分科会) 第5分科会 養護老人ホームとしての使命と令和な福祉への新たな挑戦
～課題を抱えた低所得高齢者への支援事業体として選ばれるために～

(施設名) 養護老人ホーム聖ヨゼフ・ホーム

(受賞者名) 森本 美幸 さん

(発表テーマ) 「食を通した共生社会の実現へ」

～給食提供からはじめる福祉のかたち～

編 集 後 記

令和5・6年度と情報発信委員会を担当させて頂く委員長の林でございます。

今年度も終わりが近づく中で、老施協として様々な取り組みが行われました。今回のあおによしは、今そして未来に目を向けて、他施設での日頃の研鑽の成果を研究発表として聞く学びの機会、また、多様性社会の中で働きやすい職場づくり、外国人や障がい者の雇用、SNSによる取り組みの発信等について、一端をご紹介させて頂きました。いずれも、今そして未来の日本社会に欠かせない福祉・介護に私たちの力をいかに総動員して質の高い福祉・介護を継続していくヒントになる内容であると感じます。

「あおによし」発刊に際し、原稿作成等ご協力を賜りました関係各位の皆様には、日頃のお仕事がお忙しい中でのご協力に改めて感謝申し上げます。また、本号をご覧になれる皆様にとって一助になれば幸いです。

来る新年度も本委員会委員の皆様と共に、魅力ある役立つ情報を発信して参りたいと考えております。

情報発信委員会 委員長 林 康樹